

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 2 部門第 5 区分
【発行日】 令和 5 年 9 月 7 日(2023.9.7)

【国際公開番号】 WO2022/162925
【出願番号】 特願 2022-577995(P2022-577995)
【国際特許分類】
 B 60 J 7/00(2006.01)
 B 60 J 7/043(2006.01)
【F I】
 B 60 J 7/00 Z
 B 60 J 7/043

10

【手続補正書】
【提出日】 令和 5 年 5 月 10 日(2023.5.10)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

20

車両のルーフに設けられるサンルーフ部と、前記ルーフの前後方向に延びる第一骨格部材と、前記第一骨格部材と交差する前記ルーフの交差方向に延びる第二骨格部材とを備えた車両用サンルーフ構造において、

前記サンルーフ部の重心を通る仮想軸線上で前記第一骨格部材と前記第二骨格部材のいずれかに前記サンルーフ部を連結する軸上連結部材と、前記サンルーフ部の前記軸上連結部材が設けられていない側の前記第一骨格部材の車幅方向の一方側のみ、または、前記サンルーフ部の前記軸上連結部材が設けられていない側の前記第二骨格部材の車両前後方向の一方側のみのいずれかに前記サンルーフ部を連結する連結部材とが設けられている車両用サンルーフ構造。

30

【請求項 2】
前記ルーフの平面視を基準として、前記仮想軸線と交差するように前記サンルーフ部の重心を通る他の仮想軸線を境として前記サンルーフ部を一側と他側に区分けした際に、
前記連結部材は、前記サンルーフ部と前記他の仮想軸線との交差箇所と、前記交差箇所の一側に位置する箇所と、前記交差箇所の他側に位置する箇所との少なくとも一つの箇所に設けられる請求項 1 に記載の車両用サンルーフ構造。

【請求項 3】
前記ルーフの平面視を基準として、前記連結部材を、前記仮想軸線に対して離間した一方のみに設けるとともに、

40

前記一方とは反対側に位置する連結部材の設けられていない他方は、前記第一骨格部材又は前記第二骨格部材に固定されている請求項 1 又は 2 に記載の車両用サンルーフ構造。

【請求項 4】
前記軸上連結部材は、前記連結部材よりも高剛性である請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の車両用サンルーフ構造。

【手続補正 2】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0004
【補正方法】 変更
【補正の内容】

50

【 0 0 0 4 】

上記課題を解決するための手段として、第1発明の車両用サンルーフ構造は、車両のルーフに設けられるサンルーフ部と、ルーフの前後方向に延びる第一骨格部材と、第一骨格部材と交差するルーフの交差方向に延びる第二骨格部材とを備えている。この種の構成では、車両の重量増加を抑えつつ、サンルーフ部の共振を抑制することが望ましい。そこで本発明のサンルーフ構造では、サンルーフ部の重心を通る仮想軸線上で第一骨格部材と第二骨格部材のいずれかにサンルーフ部を連結する軸上連結部材と、サンルーフ部の軸上連結部材が設けられていない側の第一骨格部材の車幅方向の一方側のみ、または、サンルーフ部の軸上連結部材が設けられていない側の第二骨格部材の車両前後方向の一方側のみのいずれかにサンルーフ部を連結する連結部材とが設けられている。本発明では、連結部材の剛性を調整するなどして、サンルーフ部の連結部材の設けられていない側を、共振を抑制するように軸上連結部材を支点として上下に振れさせることが可能となる。そして本発明のサンルーフ構造では、サンルーフ部の振れによって共振を抑制するため、マスダンパーを別途設定する必要がなく、車両の重量増加を極力抑えることができる。

10

20

30

40

50